

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600472		
法人名	有限会社 楽さん家		
事業所名	24時間宅老所 新田の楽さん家		
所在地	〒747-0825 山口県防府市新田966番1		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24 年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気での入居者との関わりを大切にしている。 ・入居者との個別対応を大切にしている。 ・家族との信頼関係の構築。(来訪時に情報の共有をしたり、イベントに参加をしてもらっている。) ・スタッフの介護技術、知識、経験の向上。(研修会、施設・事業所での勉強会の開催。) ・スタッフとの連携を図る為に勤務前の話し合いの場をもうけている。 ・地域との交流。(地域のイベントの参加、地域のスーパー等の利用。)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の実践に向けて事業所独自に「新田の楽さんのこころ」を作られ、職員の「口」「耳」「目」「手足」「心」を利用者のために使うことを職員間で共有され、日常のケアの中で支援に取り組まれています。「要望シート」で外食や外出、おやつなどの要望を聞かれたり、「良かったホット」ノートに利用者が喜ばれたことや、一つの例として、入浴したくない利用者へ「お風呂でマッサージしましょう」と声かけすると快く入られたことなど、一人ひとりに対するケアの工夫を記録され、職員間で共有され、利用者の思いや意向の把握に努めておられます。個々に応じた食事の支援をされたり、毎日10時から20時まで利用者の希望に合わせていつでも入浴できて、ゆっくりと楽しめるように支援されるなど、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①楽さん家内(玄関前, 小事務所)に理念を掲示している。 ②勤務前に担当が理念(楽さん家のこころ)と一緒に復唱し、共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念と事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、勤務前に唱和して共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①外出時、地域のスーパーに買い物に行く。 ②認知症普及啓発事業の開催。 ③楽さん家だよりの配布、回覧板を入居者と一緒に行っている。 ④地域の方に運営推進会議の参加をして頂く。	自治会に加入し、職員は清掃活動に参加している。地域である納涼際に家族と利用者が参加し、地域の人と交流する他、散歩や買い物時に挨拶をしたり、保育園児の来訪、ボランティア(フラダンス、ギター演奏、ハンドベル演奏など)の来訪があるなど交流している。月1回発行している事業所だよりを地域(自治会の班)に配布する他、市の認知症普及啓発事業を受託して、地域で認知症の勉強会を行うなど地域の一員として事業所への理解が深まるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①認知症普及啓発事業の開催。 ②キャラバンメイトの活動。(依頼があれば対応) ③運営推進会議で楽さん家、認知症について知って頂く。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	①自己評価・外部評価の勉強会を開催し、理解に取り組んでいる。 ②評価後も良い点、悪い点を話している。	評価の意義や項目の内容について理解した上で全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を業務の見直しとして捉え、ミーティングで検討し課題について共有している他、外部評価についてミーティングで話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①運営推進会議の会議録の作成をし見てもらう。 ②月一回の会議で、内容を報告し、協議する。	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や利用者の状況「ヒヤリはっと」「良かったホット」個別イベントなどについて報告し、取り組み事例や困難事例について、個別のケアを議題として意見交換している。出た意見を活かしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①運営推進会議に市の職員が参加している。 ②市の依頼があれば、啓発普及事業、キャラバンメイトの開催をしている。 ③不明な点があれば市に連絡している。	運営推進会議時の他、市の担当者とは電話や出向いて情報交換や相談するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束ゼロのマニュアルを作成している。 ②ミーティングで勉強会をしている。 ③勤務前に話し合いをしている。	独自のマニュアルがあり、ミーティングの中で勉強会で学び、職員は正しく理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①虐待防止マニュアルの作成。 ②スタッフミーティングで勉強会をしている。 ③勤務前に話し合いをしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①権利擁護に関する資料を作成している。 ②定期的に勉強会をしている。 ③家族の方と話し合いが出来ている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①施設長、管理者が対応している。また、何かあれば来訪時、もしくは電話にて対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①要望、苦情シートを作成し、全スタッフに共有し、運営に反映させている。 ②第三者の設置をしている。 ③苦情窓口の設置をしている。	運営推進会議時、面会時、行事参加時、電話等で家族から意見や要望、苦情等を聞いている。口腔ケアについての要望等、苦情・要望シートに記録し、職員間で共有し、運営に活かしている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①全体ミーティング、スタッフ勉強会で設けている。 ②管理者・主任ミーティング、部署別ミーティングで意見を反映させている。	月1回の全体ミーティングやスタッフ勉強会などで職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日常の業務の中で管理者が相談を受けたり、意見を聞いて、出た意見を運営に反映させるよう努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①勤続年数、功績(資格取得)、実績を考慮している。 ②代表に勤務表を渡し、現場に顔を出す機会を設けている。 ③慰労会、研修の開催をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①五楽会、幹部研修会の開催。 ②代表も社外の研修を企画されている。	外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし資料を閲覧して共有している。法人研修は年4回、外部講師を招くなどして実施している。内部研修は年1回計画を立て毎月テーマを決めて実施するなど働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①グループホーム協会で外部との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①アセスメントの活用と要望・苦情シートの活用。 ②D-4シートを使い、情報の共有、一日の引き継ぎで強化している。 ③良かったホットの活用。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①要望、苦情シートを作成している。 ②来訪時に、入居者の情報を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①現在、その様なニーズがない。今後あれば取り組みたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①入居者の立場に立ち、情報を基に関係を築く。 ②要望、苦情シートを基に情報の共有をする。 ③勤務前の話し合いで確認作業をする。		
20		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①来訪時、必ず日常生活の報告をしている。 ②毎月の手紙、連絡で報告している。 ③イベントを定期的に企画している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①来訪時、コミュニケーションが取れる様に環境作りの支援をしている。 ②散歩、ドライブにて対応している。 ③外出時、近所の方と会って頂く。	知人や近所の人、身内などの訪問がある他、以前住んでいた馴染みの所や、自宅までドライブしたり、馴染みの理容院の利用など、関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①状況に応じて支援したり、環境を作る。 ②入居者に応じた支援をする。 ③全体ミーティングでケースにあげ、取り組んでいる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①状況に応じて相談や支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①要望シート、良かったホットを活用。(外食、外出、おやつの要望を聴く。)	入居時のアセスメントシートや1年に1回作成しているアセスメントシート、センター方式のシート、要望シート、「良かったホット」ノートなどを活用し、日常の関わりの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情や行動から推し測り、全体会議で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①個々のフェイスシート・本人・家族からの情報で把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①引き継ぎ、D-4シート、業務日誌で把握する。(精神状態はD-4シートで把握)		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①家族、本人、スタッフの要望を聴き作成。 ②全体ミーティングでモニタリング、アイデア、意見を聴き、介護計画に反映している。	本人や家族、医師の意見を参考にして、全体ミーティングで話し合って介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、利用者の状態に変化がある時や年1回、計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①D-4シート、良かったホット、ひやりハット、要望・苦情シート、各入居者の特記事項、会議録を基に反映している。 ②勤務前にD-4シートの確認、把握をする。 ③分からない事に対しての把握作業をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①その時の状況に応じて対応している。 ②スタッフ同士の連携、優先順位、先見力を考える。 ③対応(取り組み)の情報を残す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①地域のスーパーに買い物に行く。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人、家族の要望を聴き、かかりつけ医と連携を取る。 ②24時間往診体制にて適切な支援をしている。	協力医療機関をかかりつけ医としている。職員として看護師を確保し、かかりつけ医との連携を図る他、24時間往診体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。他科受診の支援や家族への情報提供をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護師に情報を流し、かかりつけ医に情報を提供(看護師から医師に連携を図る)し、医師からの指示を全スタッフに徹底している。 ②情報は業務日誌の医療面に記入している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①地域の医療機関と連携を取り、入院の場合においても、情報の交換をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①入居、契約の時に、本人、家族に終末期の要望を聴き、かかりつけ医に情報の提供をする。	指針があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、医師、職員、関係者等で話し合い方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	①ひやりハットの記入をし、情報の提供をしている。 ②全体ミーティングで、ひやりハットのモニタリングをし、情報の共有をしている。 ③緊急時のマニュアルを作成している。 ④看護スタッフによる救命救急の研修会に参加。	ヒヤリはつと報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、職員会議で検討し共有した上で介護計画に反映させて一人ひとりの事故防止に努めている。消防署による普通救命救急法の研修の受講や事業所独自の緊急時対応マニュアルの作成の他、看護師の指導で救命救急の研修を実施している。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①マニュアルの作成をし、徹底している。 ②近隣のスーパー、おおすみ会館に協力体制の依頼をしている。 ③地域へ訓練の呼び掛け、企画中。(来年2月予定)	年2回(夜間想定を含む)火災時避難訓練を利用者も参加して実施している。近隣のスーパーや葬儀会社に緊急連絡網に加入してもらう他、運営推進会議で地域へ働きかけているが、協力関係を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①自分がされて嫌な事はしない。 ②人生の大先輩として関わりを持っている。 ③現場でのスーパーバイザーをしている。	利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。不適切な場合は、管理者が助言や指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①要望シートの活用。 ②コミュニケーション作りの提供。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①スタッフが連携を図り、対応している。(勤務前の話し合い等) ②その日の状態を見て、本人に聴き出している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①地域の美容院に行く。 ②衣服を一緒に買いに行く。 ③本人の要望により化粧をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	①おやつに関して食べたい物があれば提供している。 ②盛り付け、洗い物、お皿拭きを入居者に合わせて提供している。	調理担当の職員を確保し、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は台拭き、食器洗い、食器拭き、お茶配りなど、一人ひとりのできることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、たこやき、ケーキのデコレーションなど)外食、お弁当を買って戸外で食べるなど、食を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事量、水分量を記入している。 ②ナリコマ食で一日1400カロリーで管理している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①食後にブラッシング、うがい、義歯の洗浄をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①本人に合った排泄パターン、本人に合ったおむつのサイズ、正しい当て方の研修をし、本人に合った支援をしている。 ②本人の状況に応じて、排便時にトイレ誘導を行っている。	センター方式のシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①入居者に応じて運動をしている。(散歩等) ②乳製品(ヨーグルト、ヤクルト)を取る様になっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	①個人の要望に添って支援している。(午前中～20:00までであれば365日入浴可能。)	毎日10時から20時まで入浴が可能で利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、関係づくりができていない職員が声かけをし無理強いしないで入れるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①夜間睡眠不足に関しては、日中に昼寝をして頂く。 ②眠れない方に対しては、笑顔の見られる関わりの提供をし、安眠を図っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①看護スタッフ指示のもと介護スタッフも勉強している。 ②知識、情報の共有のもと勉強し、把握している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①アセスメントの把握をしている。 ②編み物、買い物、畑仕事等、本人の好まれる物を提供している。 ③良かったホットの活用。	DVD視聴(お笑い等)、テレビ視聴(お笑い、歌番組等)、新聞や週刊誌を読む、編み物、ぬり絵、書道、買い物、健康パークに出かけ芝居を見る。ボランティアによるフラダンスを見たり、ギター演奏、ハンドベル演奏などを聴いている。散歩や買い物、ドライブ、野菜づくり、水やり、収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗いなど、楽しみ事や活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①雑誌の購入、衣服の購入等、本人の要望に添って支援している。 ②結婚式、墓参り、イベント(重源の郷、下松健康パーク)に行かれている。	散歩や買い物(雑誌、衣服など)、季節ごとの花見、外食など利用者の希望に合わせて戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①本人の要望があり、家族の了解後、本人にお金を持って頂いている。 ②支払いが出来る方にはして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①本人が話したい時は本人に電話をして頂いたり、友人の方から電話があれば本人と話して頂く。 ②手紙に関しては、要望があれば対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①写真や掲示物、馴染みのある物を取り入れた空間作りをしている。 ②不快な音、色等、入居者が生活しやすい様に配慮している。 ③家庭的な雰囲気な物(入居者の書かれた字、花、雑誌等)を置いている。	共有空間は明るく、温度や湿度、換気、音などに配慮している。壁面には、行事の写真や季節に合わせた物を飾り、玄関に季節の花を生けてあり、窓からは外の景色を眺めることができる。各所にテーブルや椅子、ソファを配置して利用者の居場所づくりをするなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①自室、談話室で一人になれる空間作りをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①馴染みの家具や物を入居者と一緒に購入し置く。 ②氷川きよしが好きの方には、氷川きよしのポスター、写真を貼っている。	整理ダンス、ベッド、仏壇、テレビ、衣類、生活用品など馴染みものや好みの物を持ち込み、家族の写真や自分の作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①バリアフリーや手すりの設置等、自立した生活が送れる様、環境を作っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 24時間宅老所 新田の楽さん家

作成日：平成 25年 3月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	地域との協力体制の構築	地域参加型の避難訓練(通報・消火・誘導)の実施	西須賀地区自治会長を主体に協力体制を求め、避難訓練計画を立てる。それに伴ってのマニュアルや具体的な予定表、資料を作成する(地域の方に分かりやすい資料)	1ヶ月
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	2ヶ月に1回開催しているスタッフ会議を活用し看護スタッフの協力も得て、応急手当、初期対応訓練の勉強会を実施	まず、優先的に現場でおこり得る応急手当や初期対応をテーマにあげ、看護スタッフの協力の下に勉強会をする。各スタッフに直接、経験してもらったり(お互いがモデルになり)、少人数ならではの内容の濃い勉強会にしていく。	3ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。